

お手入れガイド



**Best Wool Club**



<https://www.bestwool.jp/>

この度は弊社製品をお選びいただき誠にありがとうございます。  
ございます。

お客様に喜んで頂けますよう弊社生産スタッフ一同、  
丁寧に真心をこめて仕上げました。

是非ご愛用いただき快適な寝心地をご体感ください。  
お客様が質の良い睡眠により、いつまでも健康を維持  
されますことをお祈り申し上げます。

# 1 お手入れについて

基本的には風に通すことをお願いします。

これにより、ウール製品の持つ特有の臭いや湿気を減らすことでお手入れします。直接日光が当たると、温度が高くなりすぎたり、紫外線の影響でダメージを受けるので、日陰干しが理想です。

また、湿度を取り去るのが目的ですから、多少風が有った方が良いということになります。長時間である必要はなく、天候に寄りますが、カラリと晴れた日なら、通常30分～1時間もあれば十分です。

季節や個人差もありますが、通常、最低でも1週間に1回は風に通してください。

ウォッシュブルなどのご家庭での洗濯が可能である表示があるもの以外は、ご家庭での洗濯はお避けください。

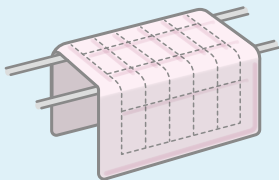
汚れなどで丸洗いをなさる場合には、寝具専門店又はクリーニング専門業者にご依頼ください。

但し、商品(洗濯機に入る大きさに限ります)によってはウール製品であってもご家庭の洗濯機で洗える場合があります。

製品に添付の洗濯絵表示に従って洗濯してください。

## 乾かし方

脱水ジワを取り、陰干し。  
タンブラー乾燥はしないでください。



## 基本的な洗濯方法は下記のとおりです。

- ①洗濯機の取り扱い説明書に従って洗濯してください。
- ②洗濯機のモード(「弱水流」・「おしゃれ着洗い」・「毛布洗い」・「手洗い」等、洗濯機機種によって呼び方が異なります)は一番ゆるやかな洗い方モードに設定してください。
- ③洗濯ネットをご使用ください。
- ④中性洗剤をご使用ください。
- ⑤タンブラー乾燥は絶対しないでください。
- ⑥脱水後、商品の形を整えて干してください。(縮み防止のため)
- ⑦乾燥時間の目安: 天気の良い日が条件となりますが冬で約7時間、夏で約5時間程度。

### 洗濯ネットの入れ方

#### 筒型ネットの場合



ネットサイズに合わせ折り畳み、凹凸がないよう洗濯物を巻きます。

#### 丸型ネットの場合



二つに折り畳み、ファスナーが外側になるように巻きます。

#### 洗濯機への入れ方

洗濯ネットのファスナーの引き手が上に来るように入れます。  
洗濯ものが浮く場合は、いったん洗濯機を止めて、十分に空気を抜いてから再スタート。



## 2 臭いについて

ウールにはウール独特の臭いがあります。

産地や収穫時期、洗いや加工方法等により、多少の違いがありますが全く無臭ということはありません。

風通しの良い場所で乾燥させることで臭いは軽減します。

また、使用中でも湿気を吸収してそのままにしておきますと、臭いが出ますので日干しをし乾燥させてください。乾燥させた後も臭いが気になる場合はさらに繰り返し乾燥させてください。

## 3 吹き出しについて

ウール繊維の表面はウロコ状となっており、ふとん生地から毛が出やすい性質があります。そのため、ふとん生地には毛が出にくい生地が使われたり、加工が施されていますが、ある程度の吹き出しはやむを得ません。多少の吹き出しであれば使用上は問題ありませんので、カバー等で覆って使用してください。

しかし、吹き出し量が多い場合には、購入店又はメーカーにご相談ください。

## 4 収納方法について

日に干してよく乾燥させた上で、汚れがあれば除去し、通気性のあるケース又は布で包んで防虫剤等を入れて湿気のない場所に保管してください。通気性がなく湿気が多い状態ですと、蒸れて臭いが発生したり、ウールの品質を損なうことがありますのでご注意ください。また、保管中でもときどき日干しをして乾燥させてください。なお、ふとん圧縮袋をご使用になる場合には、良く乾燥させてからお使いください。

## 5 製品寿命について

使用状況や収納方法により異なりますが、一般的には5年位です。ウールは、その特性から使用している間に徐々にヘタリが生じますが、機能面はあまり変わりません。

しかし、3年位経ったら点検されることをお勧めします。

## 6 ふとんの下の結露について

大人は寝ている間に、一晩に約コップ1杯分の汗をかきます。

この汗の湿気は、掛けふとん、敷きふとんを通して外へ発散しますが、フローリングに直接ご使用になる場合、フローリングは湿気が吸収されないため、水滴となって溜まってしまう可能性があります。

この現象は、部屋の温度が低い冬期に多く発生します。

濡れたふとんは、日干しをして乾燥させてください。

敷いたままにしておくとカビが生えてきますのでご注意ください。

## 7 カビについて

ふとんを長期間敷いたままにして置くと、ふとんに含まれた湿気が乾燥されずにそのまま残りカビなどが発生する原因となります。

したがって、ふとんは定期的に日干しをするなど乾燥させてください。

## 8 ふとん乾燥機について

日に干すことが一番ですが、ふとん乾燥機の使用もお勧めします。ふとん乾燥機を使用することで、ふとんの湿気を取り除くことも十分にできますし、またダニなどの雑菌を死滅させる効果も期待できます。

## 9 ダニについて

羊毛(ウール)ふとんからダニが発生することはありません。しかし、家庭内にいるダニがふとんの表面に付着することがありますので、お部屋のお掃除やふとんの日干しなど普段の手入れをお勧めします。

家屋内で見つかるダニ類は、7割以上がチリダニ科のダニと言われます。このダニはフケやアカやカビ等を餌にしていますので、これらの餌の多い場所に多く見られます。

ダニが繁殖する条件は、①高温多湿で、②餌があり、③潜って産卵する場所があるところと言われています。

部屋も長期間閉め切ると、高温多湿となりダニが増えます。したがって、ダニを増やさないためには、部屋の風通しを良くし、こまめに掃除をすることが大切です。週に2回以上の掃除を心掛けてください。



Laines  
de  
France®





## 【フランスウールのエピソード】

### 人類最古の職業「羊飼い」

旧約聖書に登場する預言者モーゼや、フランスの国民的英雄、ジャンヌ・ダルクも羊飼いだたとされています。

紀元前から始まり今も変わらず大自然や羊を相手に働く羊飼いの仕事はとても尊いものです。

フランスでは歴史的にも貴重な伝統として文化遺産登録価値の一つとして、認められています。

### 「移牧」と「移牧祭り」

フランスはミディ・ピレネー地方やプロヴァンス地方などには、「移牧」という牧畜のスタイルが今もなお引き継がれています。

ふもとの村々で飼われている羊たちを、初夏の気配とともに、冷涼で新鮮な草のある高地へと移動させるのです。

ここで羊の群れは数か月を過ごし、滋養をたくわえて秋にはまた村へ下りてくるという仕組み。

かつては数百から数千頭もの群れを、羊飼いと牧羊犬が何日もかけて歩いて率いたようですが、現在ではトラックでの移動が主です。

それでもこの移牧の日が特別な日であることには変わりなく、今でも村々で「移牧祭り Fête de la Transhumance」がにぎやかに行われています。

## 羊飼いの恋

フランス南部のロックフォール地方が発祥の「ロックフォールチーズ」は世界3大ブルーチーズの一つと言われ、羊のミルクから作られます。「ロックフォールチーズ」はまさに羊飼いが風雨をよけるために、自然の洞窟を利用していたことに由来します。

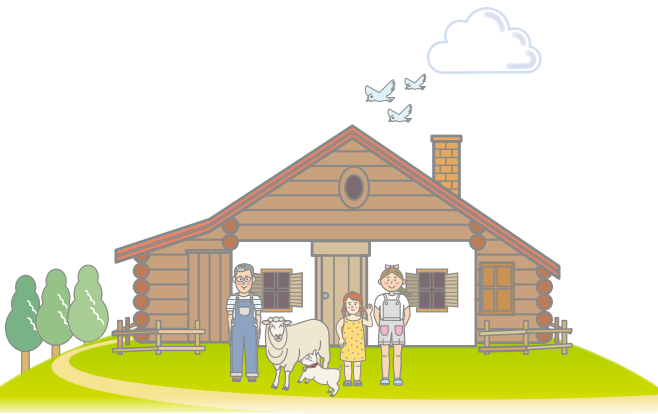
“ある日若き羊飼いがこの洞窟で昼食のサンドイッチを食べていたところ、通りかかった美少女に心を奪われ、サンドイッチのことも忘れ少女の後を追っていきました。

後日、再びこの洞窟に訪れた若き羊飼いは食べ残してあったサンドイッチに気づきます。

しかし、サンドイッチはカビていてとても食べられそうにありませんでしたが、空腹に勝てず食べてみるとそのおいしさに驚きました。”この洞窟に存在していたカビが、チーズに豊かな風味と芳香をもたらすことを、羊飼いが日々の仕事のなかで発見したのです。

その美味しさでたちまち評判となったこのチーズは、15世紀にはすでに、当時の王によって独占的製造が許され、その品質を守るための法律まで制定されたといわれています。

今でもAOC(原産地認証統制)によって管理され、「ロックフォール」を名のるチーズは、かならずロックフォール・シュル・スールゾン村(Roquefort-sur-Soulzon)の洞窟で熟成されることになっています。



## フランスウールの魅力

中世末期、15世紀ごろまではフランスでは羊は肉であり毛皮であって「羊の毛」ではありませんでした。

羊毛産業の中心として育っていった英国と違って、羊毛に対してはどこか大らかで無頓着です。

そのおおらかさが、ふとんわたにとって奇蹟のクウォリティとなりました。

## フランスウールの歴史

フランスはランブイエメリノというメリノ種羊の発展に欠かせない羊種を開発し、またメリノ種羊の世界的拡散という、メリノの歴史を語る上で極めて重要な役割を果たしました。

フランスで本格的に良質な羊毛を採るための交配研究が盛んになったのは、18世紀に入ってからです。

ランブイエでのメリノ飼育に理解を示したルイ16世と奥方のマリー・アントワネットはフランス革命によって1793年に世を去りましたが、革命政府もまた、ランブイエ・メリノの価値を認めました。

1808年から1814年まで展開されたナポレオン・ボナパルトのイベリア半島戦争はスペインの没落に直結しましたが、スペインの富の源泉であるメリノに目をつけたナポレオンは1804年にアルルなど数か所にメリノ牧場を開設し、1811年には羊種改良が達成されるまで年間60万フランの支援を行っています。

ランブイエメリノと英国種との交配で開発されたイル・ド・フランスやベリション等の羊種はフランスを代表する羊種となって現在に至っています。